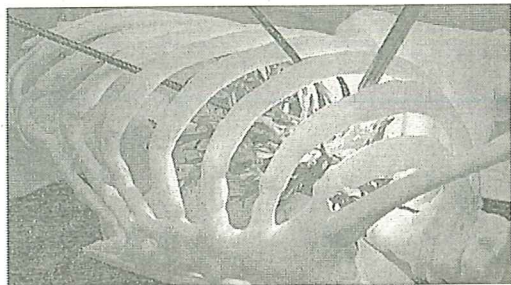


新しい日本を創る

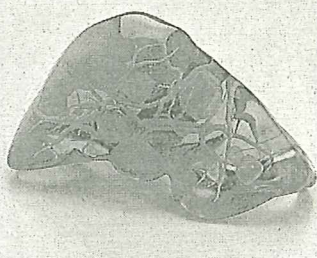
新しい国創り、成長をめざして

2013. 7. 29
日経 朝刊

アイ



3Dプリンター技術を活用した胸腔（くも）鏡シミュレーター（写真上）と臓器モデル（提供：ファソテック）

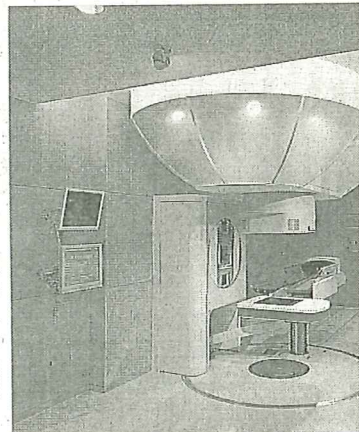
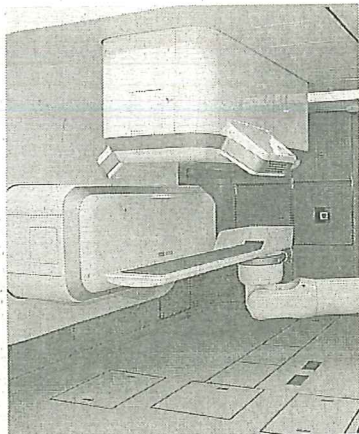


3次元技術や情報通信システムの発展も医療発展に貢献している。システムインテグレーションを手がけるファソテックは、11年から3Dプリンターの技術を活用して臓器の精密な生体モデルを製作する独自サー

周辺技術も医療に貢献

ビスを展開。CT（コンピ

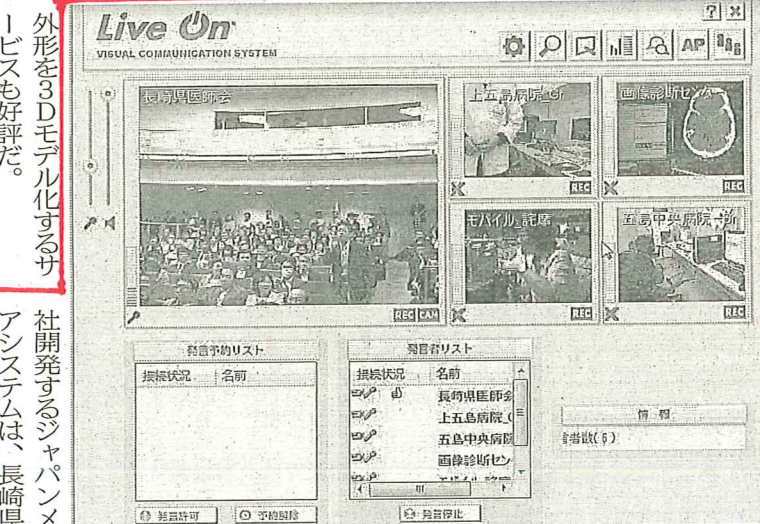
最先端の重粒子線治療を実施する治療室。写真右上は放医研のE治療室（提供：放射線医学総合研究所）、同下は九州国際重粒子線がん治療センターの治療室（提供：三菱電機）



されて注目を集めた。内部の血管まで微細に再現された生体モデルは、手術のシミュレーションや支援、患

高品質ウェブ会議や 3Dプリンターも活躍

者とのインフォームドコンセント（治療内容の合意）、医学教育などで広く利用されている。妊娠中の胎児の



地域間の医療格差解消に一役
（提供＝ジャパンメディアシステム）

外形を3Dモデル化するサービスも好評だ。地域医療の基盤となるネットワークも高度化している。高品質ウェブ会議システム「Live On」を自

信言したのに同センターである。今後は幅1ミリ以下の重粒子線ビーム、照射時間を従来比4分の1に短縮した陽子線装置などの最新技術に、治療計画や医療スタッフ、他社診断装置を組み合わせた「純国産医療パッケージ」を提案。国内と並行して、欧米、アジア、中東などへの輸出にも注力して

で培った先端技術と検査診断装置の高いシェアを両輪に重粒子線装置の新規市場を開拓している。同社は11年1月、呼吸中の肺の細胞でも正確に照射できる高速

オーノ 新ビジ

「がん治療」を目指す。日立製作所は陽子線治療装置の海外展開で実績が高い。従来の米国に加え、13年4月にはロシアの医療機関と治療施設建設に向けた協定を締結。全土を視野に入れた装置普及に乗り出した。

広告

近未来の医療は、日本のモノづくりとサービスを再び世界のひのき舞台へと押し上げる。その原動力はお客様のエレクトロニクスとITだろう。

会のストリーミング配信、オンデマンドビデオ配信、ホワイトボード機能、録画再生、資料交換など多機能な備え、離島の医療格差縮小に貢献している。情報提供病院は19カ所、閲覧施設191カ所、登録数は2万7000以上と国内最大規模。スマートフォンやタブレット端末からも接続可能で、低速回線でも1画面に20拠点を鮮明に表示するなど高品質、高信頼性のサービスを実現している。